



2021年5月 2020-2021 第7号

# ワイズメンズクラブ国際協会 アジア太平洋地域ブリテン

主題:変化をもたらそう

スローガン:奮い立たせよう



京都ウエストクラブは、京都部の Week4waste キャンペーンに、4月18日(日)に参加しました。P12を参照



デビッド・ルア地域会長(右から2番目)は、シンガポールアルファクラブ、シンガポールベータクラブとともに Week4Waste に参加しました。P13を参照

## 目次

地域会長からのメッセージ: 2

スリランカ区特集: 3-10

5月の強調月間テーマ: 11

Week4Waste: 12-13

2050年までにゼロネット・カーボン: 14

## 地域会長からのメッセージ



### アジア太平洋地域の皆さま

私たちは、世界を人類にとってより良い場所にするという使命のもと、ワイズメンズクラブ国際協会 (YMI) に参加しています。これに関連して、私たちのクラブの社会奉仕活動は、貧困、社会的弱者、高齢者そして災害救援などのニーズに焦点を当てています。さらに、YMI は、国連の持続可能な開発目標の達成に向けた社会的関心事の一環として、環境方針を強調しています。YMI のウェブサイトに掲載されている基本方針は、以下のとおりです。

YMI は、環境に責任を持つ組織であることを約束します。私たちは、環境上の「フットプリント」(活動が環境に与えている負荷)を削減する責任を受け入れます。

YMI の環境方針では、私たちに、次のように呼びかけています。

- 持続可能な方法で活動すること
- 環境への影響を最小限に抑えること
- 自然環境を保護、維持、回復すること

埋立物、プラスチック汚染、化学的発泡物は、地球温暖化の原因となることが知られています。

先月行われた「Week4Waste」では、市民意識の低い人たちが無責任に公共の場所に捨てたゴミやプラスチックを回収することで、私たちが環境に貢献していることを示す小さな役割を果たすことができました。アジア太平洋地域のクラブからの報告や写真を見ると、YMI のモットーである「すべての権利に付随する義務」をメンバーが心に留めていることがわかります。彼らの行動については、今号の地域ブリテンで詳しく紹介されています。また、「COVID-19」と呼ばれる世界的なパンデミックによる危険性があるにもかかわらず、ボランティア活動という無私の行為をしてくださった会員の皆さんに感謝します。この特別な Week4Waste プロジェクトは、環境改善のために会員同士が協力して奉仕活動を行っただけでなく、会員同士の仲間意識を育みました。このようにクラブが環境に配慮した活動を行っていることは、私たちがどんなに小さな役割しか果たしていなかったとしても、国連の持続可能な開発目標の一つに貢献していることは間違いありません。

2021 年は、第 29 回アジア太平洋地域大会が台湾で開催される年です。大会はいつも、会員が一堂に会し、YMI の下で共同体に奉仕する私たちの一体感を祝う機会となってきました。今年の地域大会は、パンデミックが続く中で、台湾以外のメンバーやゲストは、バーチャルミーティングプラットフォームを使ったハイブリッド方式で参加することとなったことは残念です。バーチャルミーティングプラットフォームを利用する参加者は、無料で参加できますが、登録が必要となります。今年は、バーチャル会議場を利用することで、すべての区から、より多くの参加者が集まることを期待しています。

本号に掲載されているスリランカ区の豊かな歴史をお読みいただき、この地域の仲間たちと交流してください。コリン・ランビーを中心とする地域ブリテンチームに感謝申し上げます。

楽しく読んでいただき、健康で安全な生活を送ってください。

2020-2021 地域会長  
デビッド・ルア





## スリランカが独立した区へ

1972年に国が共和国になったとき、セイロンは、スリランカと改名し、誇りと喜びと相まって、新たにクラブをチャーターする勢いが盛り上がりました。それまでに、クラブはキャンディ(1962年7月28日)、モラトゥワ(1964年3月30日)、アンパライ(1964年11月)およびジャフナ(1971年10月30日)ですでにチャーターされていました。これらのクラブと、コロンボおよびバドゥッラ(1974)クラブを合わせると、スリランカが独立した区となることを考えるのに十分な数となりました。すぐにジュネーブの国際本部にその意向が表明され、1975年の日本の熱海での国際大会で、スリランカは、独立した区になり、コロンボクラブのケネス・ソマナダーがスリランカ区の初代理事に就任しました。理事としての任期中、ケネスはさらに2つのクラブ、チャヴァカッチェリ(1975年11月22日)とハットン(1976年3月)をチャーターしました。スリランカ区の最初の区大会は、1976年9月10日から12日にかけて、キャンディのアンピティヤ国立神学校で開催され、200人以上の参加者が集まりました。

スタンリー・アーノルドは、ケネスから理事を引き継ぎ、任期中に、ウェリマダ(1977年2月12日)およびクルネーガラ(1977年5月28日)の2つのクラブをチャーターしました。1977年10月に第2回区



大会がコロンボで開催され、スタンリー・アーノルドが2度目の理事に選出され、1978年6月まで理事として継続しました。



ウィムジー・シンナタン

ウィムジー・シンナタンビーがスタンリーから理事を引き継ぎました。彼は、1978年から1980年までの2年間、理事を務めました。また、ウィムジーは、直前理事のスタンレーおよびシルビア・ペレラと共に、

1978年7月にオーストラリアのメルボルンで開催された第53回国際大会に初めてスリランカ区を代表して参加しました。

ウィムジーの任期中に、ウエラワッテイ(1978年11月10日)とバツィカオラ(1980年5月30日)の2つのクラブがチャーターされました。この期間中に、最初のIBCトライアングルも設立され、アーズ(デンマーク)、ア

ーレンダール(ノルウェー)、モラトゥワ(スリランカ)がトライアングル IBC を形成しました。1979年に第4回区大会がウエリマダで開催され、モラトゥワは、1979/80年のベストクラブに選ばれました。



グラッドストーン・テヴァタサンは、1980年の第5回区大会で理事を引き継ぎま

グラッドストーン・テヴァタサン

イ(1980年8月23日)とデヒワラ(1981年6月13日)の2つのクラブがチャーターされました。

ウエリマダは、休眠状態にあったために解散となりました。ウエラワッテは、区大会で「ベストクラブ」賞を受賞しました。この区は、設立後わずか5年でしたが、スリランカにおける地域大会の開催を要請されたことは光栄でした。そのため、イベントを計画し準備するためのホスト委員会が設立され、グラッドストーンが委員長を務めました。休眠状態にあったために解散となりました。ウエラワッテは、区大会で「ベストクラブ」賞を受賞しました。



ダレル・ペレラ

ダレル・ペレラは、1981年5月20日、ウエラワッテのボーイズ・インダストリアル・ホームで開催された第6回区大会で理事に選出されました。また、この区で最初の YEEP 交換留学生であるデンマークのヘ

ンリック・アウビエルグを受け入れました。彼は、ランカとマラーティー・ネシア夫妻によってホストされました。モラトゥワが「ベストクラブ賞」を受賞しましたが、バドゥッラは、休眠状態のために解散となりました。

1981年、この区は、2つの国際的なイベントの開催地となりました。ひとつは、1981年7月27日から30日までの国際議会であり、もうひとつは、1981年7月31日からの第9回アジア地域大会です。この機会を利用し、1981年8月1日に、コロンボクラブが、出席するすべての参加者のために、アジア地域におけるワイズ運動50周年記念晩餐会を主催しました。地域大会には、世界各地の150人を超えるワイズメンとワイズメネットが参加しました。著名な参加者の中には、国際会長として就任した韓国のジョーゼフ・オーム、次期国際会長・マックス・ラーソン、元国際会長のブルース・プライス、クリ

スチャン・バツハ・アイバーソン、トッド・ガンケルマン、国際書記長・ビヨン・ペダーソン、国際会計・ジェラルド・リーがいました。議会で出された重要な問題の 1 つは、インドがアジア地域から離脱し、別の地域として機能するよう要請したことでした。その結果、隣人であるインドとスリランカの間には「別れ道」が生じ、スリランカは、アジア地域の一部として継続することを選択しました。



ランカ・ネシアは、1982年6月18日から20日まで、ピリマタラワ神学校で開催された第7回区大会で理事を引き継ぎました。その年のテーマは「新しいフロンティアに手を差し伸べる」ことでした。

彼の任期中に、「グラッドストーン・テヴァタサン基金」が、第9回アジア地域大会の余剰金で設立されました。この基金から得られた利子は、スリランカのワイズメンが海外の大会に参加するのを支援するために使用されることになっていました。

### アジア地域大会

- 第9回アジア地域大会、国際議会 1981年7月31日～ホスト 竹内敏朗/スタンレー・アーノルド
- 第16回アジア地域大会・国際議会 1995年9月15日～ホスト 石井一也/デビッド・モリス
- 第23回アジア地域大会・国際議会 2009年7月31日～ホスト リタ・ヘチアラッチ/ケビン・カミングス

ワイズとYMCAのパートナーシップの原則は、1983年6月18日に署名され、これらの2つの組織の間に存在する強力な歴史的絆を強調するとともに、彼らが奉仕するコミュニティの利益のために協力することを誓いました。同じ年に新しいクラブが設立され(コーペイ、1983)、モラトゥワクラブは、その年の「ベストクラブ」に選ばれました。

2015年、スリランカのワイズメンとワイズメネットは、コロンボワイズメンズクラブを通して、スリランカの地でワイズ運動が85年目を迎えたことを顕彰しました。世界で最も歴史あるクラブと言っても良いでしょう。

ワイズ運動の他のすべての地と同様に、スリランカでも会員数は減少しています。2022年の100周年に向けて、区内のクラブ数は10に満たず、会員数は約125名と、過去の熱意と努力に比べて残念な数字となってしまっています。しかし、新たな目覚めが起こり、ワイズ運動が再び成長する時は近いのかもしれませんが。

## スリランカ区の活動

理事 ラジャン・V・ピライ

コロンボワイズメンズクラブは、過去12名の理事を輩出し、また、地域への奉仕を続けています。



1981年6月13日に設立された**デヒエラワイズメンズクラブ**は、南西部に所属しており、これまでに4人の区理事を輩出しています。

デヒエラのクラブの会員は、常に地域社会への奉仕活動を積極的に行ってきました。そのいくつかをご紹介します。英語の本を買うことができない農村部の貧しい子供たちに英語の本を寄付したり、近隣の盲学校の病室にリネンを提供したり、近隣の児童養護施設の恵まれない少年たちに昼食を提供したり、車椅子を必要とする老人ホームに車椅子を提供したり、マラリアを阻止したり、干ばつの被害者を支援したり、北東部の村の貧しい人々に水を供給したり、電気

式の水ポンプを設置したり、配管工事をしたり、シャワーや蛇口を設置したりしています。

チャーター会長 マルコム・ディアス



(パンデミック前のプロジェクト)



**クルネガラワイズメンズクラブ**は、中央東部に所属しています。

1977年5月2日にチャーターされ、ヒーヴィー・ワニガセカラが初代会長を務めました。このクラブからは5人の区理事を輩出しています。クルネガラクラブもまた、地域社会への貢献に大きく貢献しています。その一部をご紹介します。

- 医師による視力検査とメガネの無料配布
- 医師による健康診断と医薬品の提供
- サラセミア患者のための特別な注射器の提供
- St.Lourdes 孤児院の子供たちに通学用のバス定期券を提供(継続中)
- 栄養不足の人々に栄養パックの提供
- 環境保護のための植樹活動
- 仏教やヒンドゥー教のお祭りを共同で開催し、参加することで、宗教的な調和を促進する。貧しい事故被害者への車椅子や松葉杖の提供
- 農村部の病院で生まれたばかりの赤ちゃんにベビー用品の配布
- クリスマスの時期に低所得者の家庭にフードパックやドライフードの提供
- 農村部の学校の図書館に本の提供
- 必要に応じた洪水や災害の救援
- クリーンな飲料水の提供
- 家庭菜園用の野菜の種と肥料パックの配布
- 有機農法の開発と推進
- クルネガラ総合病院の癌患者に特別食パックの提供
- クルネガラ総合病院にあるサラセミア病棟の子どもたちに PCR 検査キットの提供
- ライオンズクラブや他の NGO との共同プログラムの実施



**マハーヌワラワイズメンズクラブ**

は、中央東部に所属しています。2004年5月31日にチャーターされました。



チャーター会長  
キールティ・バレティ

クラブは、以下のCSプロジェクトを行っています。

- マハイヤワ高齢者施設(キャンディ)へ、日中の食事のための施しとして50,000ルピーを寄付
- 高齢者施設の入所者に食事とおやつを提供し、寺院への送迎を実施
- 高齢者施設への訪問、食事と音楽・歌の提供
- 貧しい村の人々のための健康クリニックの運営
- 車椅子やミシンを寄贈したり、家を改築したりするための建築資材の提供
- 環境保護のための布袋を配布
- Jak(巨大な木になる栄養価の高い果物や果物/野菜)の苗の配布
- 学校の子供たちへの安全教育



**モラトゥワイズメンズクラブ**は、スリランカで2番目に古いクラブです。

南西部に所属していて、1964年3月30日にチャーターされました。3人の理事を輩出しています。



チャーター会長 *Dr. H. A. アボンソ*

モラトゥワイズメンズクラブでは、地域コミュニティへの奉仕を続けています。奉仕プロジェクトのいくつかをご紹介します。

- モラトムラ・メソジスト・エルダーズホームの新棟増築(YMIのTOF基金とドイツのシュミット財団の支援による)
- クリスマス・セレナーデ(ミニストレル・ショー)
- サンタクロース・パレードとミニ・カーニバル
- クラブの特長的イベントである「クイズナイト」(数回開催)(ファンド集め)
- カプリンナ・ナイト(2回開催)(ファンド集め)
- ワイズメンダンス(Rhythms of Moratuwa)(ファンド集め)
- Rukshan & Experiments と一緒に歌ってみよう!(ファンド集め)
- バンド Flame と過ごす Reto ナイト。2016年4月にHotel Ranmal で実施し、ムレリヤワの「Half Way Home」のために400,000ルピーを集めました。

**ネゴンボワイズメンズクラブ**

南西部に属しています。2004年5月23日にチャーターされました。マリック・フェルナンドがチャーター会長です。

会員数は少ないですが、心と魂を込めて地域社会に貢献しています。

近隣の恵まれない人々のニーズに応え、障がいのある若者を支援するなどコミュニティに奉仕しています。右は、その写真です。(パンデミック発生の前に行われたプロジェクトです。)



**ウェラワッテワイズメンズクラブ**は、南西部に属しています。1978年11月10日にエマニュエル・グナプラガサム師をチャーター会長として設立されました。当クラブからは、これまでに7名の区理事が就任しています。



チャーター会長 ニメシュ・ペイリス(左はユースのときの写真)

**ヤングモラトゥワイズメンズクラブ**は、南西部に属しています。チャーターは、1987年5月12日です。

2014年から連続7年間、最優秀クラブ賞を受賞しています。クラブは、区の中で極めて活動的で、コミュニティーの差し迫ったニーズへの対応に焦点を置いています。

2020年7月から今に至るまでのプロジェクトは、以下のとおりです。総金額は、1,134,00ルピーです。

- 貧困地域のローマカトリック・ジュニア神学校のマットレスを購入
- 貧しい学校の子供たちにバンドのコスチュームを購入
- 貧困地域に住む、家を必要とする家族のために土地を購入。実際にかかった費用は90万ルピー、4500米ドルで、最近のスリランカのCSプロジェクトの中では最も高い価値があります。
- 飢餓をなくすために、施設にいる60人の知的障がい者に夕食を提供
- 地方の学校の生徒にフェイスマスク300枚と温度計を寄贈
- パンデミックの際に、学校の子どもたちが清潔に過ごせるよう、複数の蛇口が付いた洗面台を提供
- 風で壊れた家の修復
- マウントラヴィニア警察に350枚のフェイスマスクを寄付し、地域の貧しい人々に配布
- 支援するにふさわしい家庭に食料の詰め合わせを寄付
- 地方の基幹病院に体温計を寄贈
- 飢餓をなくすために、チャイルドケアセンターに継続的に食事を提供
- 10人のストリートチルドレンに商品券を配布
- 48人の子どもたちに靴、おもちゃ、ランドセル、文房具を提供し、また、ブレッシング・チャイルドケアセンターに通う子どもたちのために炊飯器と電気アイロンを提供
- GCE試験を受験する子どもたちに、オンライン授業でのコピーやプリントアウトのための資金を提供

他にも、いろいろあります。





**バンダラウエラワイズメネットクラブ**は、中央東部に所属しています。2017年4月29日に、ウェンディー・マシアスをチャーター会長としてチャーターされました。

地域がロックダウンされる前まで、クラブは、近隣の地域で例えば以下のCS活動に継続的に参加してきました。

- 万霊節を記念して、バンダラウエラのカルメラル修道院のシスターに食料と滋養物を手渡しました。
- 近隣のエルダーズホームに、米、大豆、ダール、砂糖、小麦粉、粉ミルク、トイレットリーなどを寄付しました。
- 近隣のモンテッソーリで四旬節のプロジェクトを実施し、スナックやミロ・ドリンク、そしてモンテッソーリの台所のための流しを寄付しました。
- 他のエルダーズホームで、四旬節のプロジェクトとして15人の高齢者に昼食を提供しました。
- 他のエルダーズホームの高齢者14名とスタッフ4名に新年の特別ランチを提供しました。また、お年寄り一人一人にギフトパックを寄贈しました。
- 25世帯に英語の本を寄贈しました



**マウントラヴィニアワイズユースクラブ**は、南西部に属しています。2018年5月29日にジェyson・ダニエルをチャーター会長としてチャーターされました。

パンデミック発生以前のプロジェクト

- 1,000本植樹キャンペーンへの参加
- 遠隔地の学校2校に本の寄贈
- 高齢者施設での歌の披露
- 東部地域の病院の医療機器の寄贈



**モラトゥワワイズユース(ミュージック)クラブ**(予定)は、南東部に所属しています。予定されているクラブ会長は、ファニー・フェルナンド(STEP学生)です。

1)パンデミックで深刻な被害を受けた家族が増えたことに注目し、食料の詰め合わせを寄贈することを決定しました。6つの詰め合わせを環境に配慮した梱包を行って、相応しい家族に配布しました。彼らは、それぞれの家族とじっくり話し合う機会を持ちました。今後もできる限りの支援をすることを約束しています。

2)2月13日にモラトゥワYMCAで、英語の授業を受ける余裕のない2020年の普通レベルの学生のためにセミナーを行いました。このセミナーは、約2時間半のもので、英語と英文学の資格を持つ教師が行いました。模擬試験が2回、過去問の検討が1回行われましたが、このセミナーには近隣の学校から17名の生徒が参加しました。セミナーの最後には、ワイズユースクラブから軽食が提供されました。

前ページから続く



## カンボジアに1年に1本の井戸を スカイ、イボンヌ

現在、地球上では、世界の9人に1人が安全で清潔な水を手に入れることができず、2分に1人の割合で、汚染された水源で子供が亡くなっています。

農村部ではきれいな水が必要です。水源がないということは、多くの子供たちが水を集めるのを手伝い、教育を受ける機会を失うことを意味します。汚れた水にはロタウイルスが含まれているため、汚染された水源によって多くの子供が下痢で死んでしまいます。

カンボジアでは、特に遠隔地の農村部では、家庭用の水を得るために6マイル以上も歩かなければならない人もいます。井戸を作る費用も出せない家庭が多いのです。どうやって水を確保するのでしょうか。家から遠く離れた場所で、きれいな水源を探さなければならぬかもしれません。それはとても大変なことであるだけでなく、その水がきれいなものかどうかはわからないのです。

私たちは、この問題に取り組み、彼らが正しく行動できるように支援しています。このプロセスは、とても感動的で意味のあるものです。そして、「カンボジアに1年に1本の井戸を」というプロジェクトに参加してくれる良い仲間が増えると信じています。私たちは、農村部のより多くの家族に提供したいと考えています。



100  INTERNATIONAL   
since 1922

## YMCA とワイズメンズクラブとのパートナーシップ構築の一例

YL 国際/地域事業主任 東日本区 宇都宮クラブ  
山田公平

YMI の YMCA とのリエゾンとして、私は様々な国の YMCA とワイズメンズクラブとの間に良好で意義深いパートナーシップを構築しようとしてきました。話すだけではうまくいかないことに気がつきました。ワイズメンは、どのようなサービスが YMCA にとって役立つのかをよく理解していないのではないかと何度も感じました。おそらく多くの YMCA は、寄付やチャリティーイベントでのボランティアの手助けを除いて、ワイズメンが彼らの YMCA とのパートナーシップで何ができるのか理解していないでしょう。新型コロナウイルスは、YMCA とワイズメンが共に、彼らの住むコミュニティや若い人たちのために何ができるかを考える機会を与えてくれました。

2020 年の終わりに向けて、世界 YMCA 同盟は「Youth Led Solution」(ユース主導の解決策)というプロジェクトを提案しました。持続可能な開発目標のゴールに沿ったさまざまな問題のプロジェクトに、若者がそれぞれのコミュニティで挑戦することで、YMCA の考えるユース・エンパワーメントを実現することができます。

何人かの若者が、環境問題などの地域の課題を解決するためのパイロットプロジェクトを提案することができます。プロジェクトを完成させるためには、効果的で持続可能なアプローチのための優れた戦略と資金が必要です。その資金を YMCA やワイズメンが手配して、選ばれたプロジェクトを支援したり、プロジェクトを支援する企業を紹介したりすることができます。これは、YMCA とワイズメンズクラブが共同で行う、若者とのパートナーシップワークの一例です。

## YMI – WeeK4Waste (2021 年 4 月 18-24 日)

W4W 地域事業主任ポール・リム、PR 地域事業主任アンディー・フー

ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)の Week4Waste プロジェクト(4月18日~24日)は、アースデー(2021年4月22日)に合わせて行われ、世界中のワイズメンバーに周知されていました。これは、道や公園、川や浜辺、森や山の中などで、プラスチック、ガラス瓶、缶などのゴミを無差別に放置する人々から環境を守り、きれいにするために、メンバーが手を取り合ってゴミを拾う1週間の活動です。

メンバーとユースグループは、ワイズのベスト、ワイズメンズクラブの T シャツ、ユニフォーム、ジャケットを着て共に参加し、崇高なプロジェクトを行いながら、ワイズダムの広報活動を行います。私たちは、奉仕クラブですが、これは単にゴミを拾うだけでなく、母なる地球を救い、奉仕するために個人やグループでゴミを拾っていることを皆に示すため、歩くことによる、社会奉仕の最良の方法です。また、ポイ捨てをしないように人々を教育し、環境を保護し、若い人から年配の人まで環境に配慮した態度に変えて、世界をよりグリーンにすることができます。

アジア太平洋地域(ASP)は、YMI が出した課題に全力で取り組んできました。ASP のほとんどの区が Week4Waste プロジェクトに参加しましたが、政府によって人の移動や外での活動を制限されている区は、例外でした。

私たちは、変化をもたらしています。

### 西日本区

**京都ウエストワイズメンズクラブ**は、4月18日(日)に京都部の Week4Waste キャンペーンに参加しました。午前中の3時間、京都市内を清掃し、7袋のゴミを回収しました。(次ページ写真左)

### 東日本区

**富士五湖ワイズメンズクラブ**は、4月24日(土)に山梨県のパインズパークで開催された「第10回障がい者フライングディスク大会」に合わせて、Week4Waste の清掃活動を行いました。(次ページ写真右)



**台湾区**では、Week4Waste に協力し、道路や海岸をきれいにしました。

**北部**:2021年1月には毎年恒例の社会奉仕活動「寒い冬に暖かいものを提供しよう」に40人のワイズメンバーが参加し、4月にはメネットの活動として公園の清掃を兼ねた医療講演会を開催しました。推定50名のワイズメンバーとメネットが参加しました。

**中央部**:彰化YMCAと一緒に、約60人のワイズメンバーが、多くのプラスチック袋、粗大ゴミ、ガラス、危険な針を拾いました。合計355.7Kgの海洋ゴミを回収し、湿地帯をきれいな自然景観にしました。

**南部**:清掃活動は、屋外での他の活動と同時に行われます。



## 南東アジア区

**香港部**では、4月25日、ドラゴンボートに乗って海辺の清掃活動を行いました。約60名のワイズメンとドラゴンボートの選手が参加し、漁網や家具など、合計142.8kgのゴミを回収しました。



ネパールの**ルンビニ Y サービスクラブ**、サマタとルンビニのユースクラブ、香港部、サーブ・ピープルネパールが共同で Week4Waste プロジェクトを実施しました。2021年4月26日に、カワソティ市の学校と周辺道路の清掃を行いました。ルンビニ Y サービスクラブは、Week4Waste プロジェクトの一環として、掃除道具を学校に寄贈しました。



#### SMIT 部

シンガポール**アルファチャプターワイズメンズクラブ**と**ベータチャプターワイズメンズクラブ**は、イーストコーストパークウェイに沿った海外を清掃しました。



マレーシアの**シルバーステート Y サービスクラブ**は、販売することができる、銅線、鉄、雑誌、古本、新聞、電気製品、ペットボトル、清涼飲料水の缶など、合計 346kg のリサイクル品を収集しました。集まったお金は、シングルマザープロジェクトに寄付され、彼女たちの負担を軽減します。(写真左)

タイの**チェンマイワイズメンズクラブ**の清掃活動は、新型コロナウイルス禍の中で、まずは家とその近くから始まりまし。ワイズメンと YMCA の皆さんの 4 月 20 日の活動の様子です。(写真右)



## グリーン活動と環境

グリーン活動・環境/ブリテン 地域事業主任  
コリン・ランビー

### 2050年までにゼロネット・カーボン

2050年までのゼロネット・カーボンとは何を意味するのでしょうか。また、それを達成した場合、あるいはしなかった場合の影響は、どのようなもののでしょうか。2050年までにゼロネット・カーボンを達成することは、多くの国が発表しており、オーストラリアなど一部の国では現在も検討中です。人為的な気候変動問題に対処するためのものであることは、皆さんもご存知でしょう。それが解決策だと思っている人もいるかもしれませんが、そうではありません。

一般的に「炭素」と呼ばれる二酸化炭素を主とする温室効果ガスをすべて排出しないことは、不可能です。ゼロネット・カーボンが達成されたとしても、私たちが吐き続ける二酸化炭素があります、しかし、排出された量と同じ量の二酸化炭素が取り込まれると、相殺されることとなります。

大気中の二酸化炭素を除去するには、大気から二酸化炭素を取り出し、大気中に戻さずに何かに利用する「ドローダウン」など、さまざまな方法があります。非常に大規模な植樹もそのひとつでしょう。

2050年までに温室効果ガスをゼロにするという話を聞けば、気候変動に対する私たちの貢献を解決する方法だと思いかも知れません。しかし、気候科学の専門家によれば、それは、あまりにも小さく、遅すぎるとのことです。その結果は、予測されていた通り、異常気象ですでに経験済みです。温暖化を1.5°Cに抑えるためのゼロネット・エミッションという目標は、「IPCC 2018:『1.5°Cの地球温暖化』IPCCの工業化以前より1.5°Cの温暖化の影響に関する特別報告」に含まれています。温暖化を1.5°Cに抑えていく世界では、今後10年間で温室効果ガスの排出量が急速に減少するだろう・・・とありますが、これは、2018年に書かれたものです。

私たちは、何もしない、あるいは何もしなかった場合にどのような結果になるかを知らされており、それはすでに経験しています。例えばより大規模な山火事、洪水などです。解決策もわかっています。例えば、石炭を再生可能エネルギーと蓄電池に置き換えたり、再生可能エネルギーで動く電気自動車に移行したりすることです。

なぜ私たちは、そのアドバイスを無視するのでしょうか？

### 編集長からのメッセージ

今号は、スリランカ区の特集で、次号は台湾区です。次の6月号が現在のブリテン編集チームによる最後ブリテンとなります。PR 地域事業主任のアンディー・フーが継続的に地域のFacebook ページに記事を掲載してくれています。どうぞご覧ください。



### ブリテン編集チーム

編集長: コリン・ランビー  
デザイナー:  
ディーパック・バンダリ  
マリア・マグダ・ガーナ  
配布: 利根川恵子  
アドバイザー:  
デビッド・ルア  
ラモナ・インダイ・モラレス

日本語版翻訳/編集: 田中博之

アジア太平洋地域ウェブサイト: <http://www.ysmenap.org/>  
Facebook: <https://www.facebook.com/aspysmen>